

## 長崎県地域留学生交流推進会議

|      |  |          |      |       |
|------|--|----------|------|-------|
| 事業名  | 長崎平和大学(平和と長崎の歴史を学ぶバスハイク)                 |          |      |       |
| 実施期間 | 平成23年6月4日 ・ 平成23年11月5日                   |          |      |       |
| 場 所  | 長崎大学中部講堂、平和公園, 原爆落下中心地、長崎原爆資料館、長崎歴史文化博物館 |          |      |       |
| 参加者  | 外国人留学生                                   | 地域住民・企業等 | その他  | 合計    |
|      | 542 名                                    | 12 名     | 75 名 | 629 名 |



被爆体験講話者に質問をする留学生

### <実施内容>

#### (経緯)

長崎平和大学は、長崎県の平和事業の一環として、被爆地長崎において戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えていただくことを目的に、平成17年から一般市民を対象に始まりました。留学生の参加については、被爆地ならではの交流行事として、平成20年度の長崎地域留学生交流推進会議において、提案・決議され、長崎県及び長崎市の協力により、平成20年11月の市内2大学による試行を経て実施された行事です。

#### (目的)

長崎平和大学は、新規渡日留学生に被爆体験講話や原爆資料館及び長崎歴史文化博物館等の見学を通して平和と長崎の歴史について学習させ、留学地長崎の理解を深めさせることを目的としています。

#### (行程)

被爆体験講話及び質疑応答(於 長崎大学中部講堂) → 平和案内人(市民ボランティアガイド)の案内で平和公園を見学 → 原爆資料館を見学 → 長崎歴史文化博物館を見学

#### \* 被爆体験講話 \*

6月の平和大学では平成22年5月にオランダで開催された「海外原爆展」でも被爆体験を講話された奥村アヤ子さんをお迎えしました。奥村氏は原爆の悲惨さ、悲しみや苦しさを次世代を担う子供たちに与えてはならないと世界に向けて核兵器廃絶を訴えられています。

また、11月の平和大学では平成23年8月から約2カ月間ロシア第2の都市サンクトペテルブルクにおいて開催された「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」の開会日に、「非核特使」として被爆体験を語られるなど、国内外でのご活躍をされている深堀譲治さんをお迎えしました。

留学生達は、講話者の貴重な話に真剣に耳を傾け、講話後には、質疑応答も行われました。この行事は、新規渡日者を対象としていて、参加者の中にはまだ日本語に慣れない学生も多いため、日本語の講話に英語の逐次通訳をつけたり、壇上スクリーンに中国語と韓国語の字幕を表示するなど、留学生の理解をより深める工夫を行いました。

**\* 平和公園見学・原爆資料館見学 \***

平和案内人(市民ボランティアガイド)の案内で10人程度のグループに分かれて平和公園と原爆落下中心地を見学し、その後、各自で原爆資料館内を見学しました。被爆体験講話の後だったこともあり、留学生ひとりひとりの心に響くものがあったようで、皆、平和への誓いを新たにしていました。平和案内人の方々は、日本語、英語、中国語、韓国語の言語別に対応してくださったため、原爆の実態についての理解がより深まったようでした。また、留学生同士の交流はさることながら、平和案内人と留学生との間にも暖かな交流が生まれました。

**\* 長崎歴史文化博物館 \***

長崎歴史文化博物館は、江戸時代に長崎の行政、司法、外交など幅広い役割を果たした長崎奉行所を博物館として復元したものです。長崎歴史文化博物館の見学を通して、留学生達は鎖国時代に唯一の海外交流拠点として栄えた長崎の歴史を学習し、留学地への理解を深めるとともに、これから始まる長崎での留学生活への決意を新たにしていました。

**<参加者からのコメント>**

日本に来る前に、長崎には原子爆弾が投下され、想像ができないような災難が起こったという話を聞いたことはありましたが、はっきりとは知りませんでした。そして、何の苦勞もしないで成長してきた20代の私には、戦争のイメージはあまりありませんでした。しかし、今回、平和大学のプログラムに参加して、本当にいい勉強になりました。あのひどい災難で大事な家族を失った講話者は、私達にあの日のことを詳しく教えて下さいました。毎回、被爆した日のことを繰り返し思い出すたびに、泣きたいほど苦しいだろうと思います。また、平和公園で、もうお年寄りとなったボランティアガイドさん達が、被爆者として一生懸命解説している姿を見たり、深堀さんのように自分の経験を人々に伝えている姿を見たりして、平和を守らなくてはならないと世界に訴えている人に感心しました。私は、原爆資料館で当時の悲惨な写真や、放射病の写真を見るなり、鳥肌がすぐにたちました。ただ見るだけでも、私にとっては怖くてたまらないことでした。平和を守ろうということ、ただ口にするだけでは足りないと思います。今後、一体どうやって平和を維持するのか、簡単に原子力を使用する事について国々に真剣に考えてほしいです。今回の活動に参加しなかったら、原爆の恐ろしさをそんなに身近に感じられなかったです。平和大学を企画してくださった関係者のみなさま、本当にありがとうございました。(李 亜琪 / 中国) (Li Yaqi / China)

長崎に来てからもう一カ月になりました。長崎はすごくきれいで、やさしい人がいっぱいいました。それで、すぐにここが好きになりました。でも、今回の平和大学のプログラムに参加しなかったら、長崎の悲惨な歴史に関しては何も知らずに母国に戻ったかもしれません。初めに、被爆者のお話をうかがい、その時の状況を自分の目で見るように想像することができました。また、原爆資料館や平和公園に行き、原爆の被害を受けた建物や人々の写真を見て、普段とは違う気持ちになりました。私達が当たり前のように思う、今の平和がどんなにありがたいことなのかを改めて確認しました。(金 志桓 / 韓国) (Kim Jeehwan / Korea)